様式5

学校番号 中4

令和7年度　学校評価書　（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

福岡県立嘉穂高等学校附属中学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

			評 価（総 合）
学校運営方針	校訓「立志」・「忠恕」・「而今」に掲げる精神を理解するとともに、多様な個性を尊び、未知なるものに挑戦できる人材の育成		A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
生徒が主体となって学校生活を作っていく姿勢を育むことができた。引き続き、基本的な生徒指導、基本的な学習指導を実施していくことで、生徒の主体性、創造性、多様な生き方を尊重する姿勢と新たな時代が求める学力を育成していく。	「礼節」「多様な生き方を尊重する姿勢」を備え、高い人権意識を持つ生徒の育成を図る。	○人権にかかる職員研修の実施や、職員の適切な言葉遣いの徹底により、職員の人権感覚と人権意識の高揚を図り、強い人権意識に基づいた教育活動を実施する。 ○人権教育を推進・充実することにより、生徒の人権感覚の育成と他者への配慮の徹底を図る。 ○教育活動全般における道徳教育の実施により、多様な生き方を尊重し、他者とともによりよく生きるための基盤を養わせる。	
	生徒のたくましさと誇りの基盤となる「自主性」「主体性」「創造性」の育成を図る。	○潤陵祭（文化祭）・大運動会等の生徒会行事及び部活動を充実させることにより、生徒の「自由と責任に基づく主体性」、「自主性」「創造性」を育む。	
	生徒の課題解決力の基盤となる「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。	○各教科で考査並びに模試結果等の分析を確実に行い、指導方法の改善を図ること（指導と評価の一体化）により、生徒に「基礎的・基本的な知識・技能」を確実に習得させ、「思考力」「判断力」「表現力」を育成する。 ○教員が質の高い授業と質の高い考査を実施することにより、「深い学びに繋がる問い」を実践し、生徒の学力を向上させる。 ○全職員が「学びにおける生徒の成長の見取りと学力の向上」を自己評価の項目に位置づけ、年間を通して研鑽に取り組む。 ○到達目標の明確化とシラバスを充実することにより、生徒が主体的に学習の取り組む姿勢を確立させる。	
	「嘉穂Dream Compass」において、生徒の個性及び自ら学び考え行動する能力を開発し、生徒の第一希望進路の実現を図る。	○情報リテラシーの習得により、課題解決能力を育成する。 ○嘉穂Dream Compassを軸として課題発見・課題解決能力を育成するとともに進路観を育成する。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を向上させる。	・各教科のシラバスを修正・活用し、生徒が見通しを持って学習することができるようにする。	B	A	A	・学期ごとの評価、模擬テスト結果等の分析を更に進め、指導計画にブラッシュアップを通して、適切な指導と援助に努める。	A	6年間を見据えた教育を充実したものにするため、数学や英語において発展的内容を充実させることに期待している。
		・各教科が到達目標を設定し、生徒の学力の把握と到達目標の共有を行う。	A					
		・綿密な学習指導計画に基づき、生徒の主体的な学習計画及び実施の援助を適切に行う。	A					
	学習効果を高めるための指導の工夫改善を行い、学力向上につなげる。	・模試などの評価に対する分析を綿密に行い適切な指導に活かして学力向上を図る。	A	A		・深い学びにつながる問いは、教員間の連携や指導例を蓄積しながら、授業改善や学習指導のたゆまぬ効果向上に努める。		
		・普段の授業の様子や考査などの成績に基づき習熟度による授業を適切に実施し、学習効果を高める。	A					
		・知識・技能を確認する問いや深い学びにつながる問いを設定し、問題解決や自らの考えを広げるような視点に立った考査問題を出題する。	B					
研修部	「深い学びに繋がる問い」について職員全員が共通認識をもち、授業を改善できるようにする。	・年二回の授業アンケートを実施し、その結果を基に生徒が自らの伸びを実感できる授業を実施する。	A	A	A	・授業アンケートの結果を踏まえ、交流活動の目的を生徒に明確に伝えること、振り返りの時間を設けて生徒が自らの伸びを確認できるよう、授業改善を行う。	A	授業研究の取組を授業改善に生かすことで指導と評価の一体化に繋げてほしい。
		・単元の終末における生徒の姿を想定した授業作りを行えるように、指導案の検討を行う。	B					
		・一人一回の研究授業を行い、良い点と改善点を明らかにして授業力を向上できるようにする。	A					
	「指導と評価の一体化」に関する職員の理解を深め、授業改善につなげる。	・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」とその使い方について職員研修を行う。	A	A		・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を活用した授業づくりを進めることができた。生成AIなど、目まぐるしく変化する状況に対応できるよう、ICT活用についての研修を行う。		
		・「指導と評価の一体化」を目指したICTの活用について提案し、共通理解を図る。	B					
		・参観シートを用いて研究授業を相互に評価し、「指導と評価の一体化」に関して改善を図る。	A					
キャリア教育部	KDCキャリアプランニングプログラムにより、自ら学び、考え行動できる生徒の育成を図る。	・一人一研、課題研究の課題探究活動を充実させる。	B	B	B	・探究活動の指導計画の改善を図り、より体系的に学ぶシステムを構築する。	A	KDCや宿泊体験など嘉穂附属中でしかできない教育活動を充実・発展させ、高校との適切な接続に期待する。
		・修学旅行、宿泊研修、大学訪問などの体験活動における学びを充実させる。	A					
		・課題設定、情報収集、情報分析、まとめなどの研究の過程の中で課題発見・課題解決能力を育成する。	B					
	中高連携を促進し、個に応じた指導を充実することで、学力向上及び心身の育成を図る。	・放課後学習を通じて、個に応じた支援を充実させる。	B	B		・3年生2学期以降の指導について、高校との接続を注視しつつ更に充実させる。		
		・中高で教科ごとに成績分析を行い、成果や課題について共有する。	B					
		・道徳教育や学級活動を充実させ、生徒の「自主性」「主体性」「創造性」を育む。	B					
生徒指導部	礼節や規範意識の高揚を図り、他者理解や多様な生き方を尊重する生徒の育成を図る。	・全ての教育活動において教師・生徒の言語環境を整え、教師と生徒、生徒間の望ましい信頼関係を構築する。	A	A	A	・他者との関わりを通じて、自己肯定感の高揚や思いやりの心を育てる。 ・挨拶や礼節の大切さに気づき、自然に実践できるように日々の教育活動を通じて支援体制を構築する。	A	明るく楽しそうな雰囲気が感じられ、挨拶もしっかりできている。高校生を手本にできる素晴らしい環境を生かし、さらなる成長を目指してほしい。
		・挨拶をはじめとした他者との関わりを通じて、生徒自身に礼節や規範意識の大切さを気づかせ、附属中生としての自覚を持たせる。	B					
		・学級活動や道徳の時間、エンカウンターの授業を通して、共感的な人間関係を育成し、「多様な生き方を尊重する姿勢」を養う。	A					
	生徒会行事を充実させ、生徒の「自主性」「主体性」「創造性」の育成を図る。	・学年の枠を越えた学校行事等を通じて、多様な個性が発揮できる場を設定し、集団の発展に寄与する生徒を育成する。	A	A		・学校行事等を通じて、リーダーの育成を図る。 ・多様な個性が発揮できる場を設定し、リーダーの育成を図る。		
		・学校行事の企画・運営を生徒会や実行委員会主体で見通しを持って行うことにより、生徒の自主性や主体性、創造性を育成する。	A					
		・リーダーズ研修や学校行事の実行委員を通じて、リーダーとして活躍できる場を設定し、自他の成長の機会を大切にさせる。	A					
人権特別支援教育部	言語環境を整え、人権教育を推進・充実することにより、生徒の人権意識を向上させる。	・言語環境を大切にし、すべての教育活動において生徒の人権を尊重する教育を行う。	A	A	A	・人権同和教育授業において、三年間を見通した系統的な繋がりを明確にし、生徒の人権感覚向上に繋げる。	A	教員の人権意識を高めるという考えは素晴らしい。今後も取組を継続してほしい。
		・人権に係る研修会を開催し、人権意識の向上を図る。	B					
		・定期的に会議を開き、生徒・教師の言語環境を整えていく。	A					
	合理的配慮を施し、全ての生徒が生活しやすい環境を整える。	・定期的に情報を交流する場を設け、全職員で生徒の実態把握や指導の共通認識を図る。	A	A		・情報共有と見守り支援体制を更に充実させ、生徒を支援していく。 ・年間を通して、教育相談期間を設定する。		
		・スクールカウンセラーや専門機関と連携し、個に応じた支援ができるように指導工夫・改善に努める。	B					
		・定期的な教育相談やアンケートを実施し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握して生徒の個性を伸長する。	A					
第Ⅰ学年	学年スローガン「守・破・離」の精神をもとに、6年間の意義ある学びについて見通しをもち、意欲的にに取り組む姿勢を培う。	・気持ちのよい挨拶、適切な言葉遣い、丁寧な掃除などについて職員が模範となり、生徒の礼節面での成長と人権意識の高揚に努める。	B	A	A	・学習面では、学年全体で高度な目標に挑戦できるよう指導・支援していく。 ・生活面では、個人の良さや頑張りを集団の中で積極的に発揮しようとする意識を更に高める。	A	個を大切にしながら集団の中で教育活動を行っていることが素晴らしい。
		・行事や宿泊研修などにおいて交流活動を仕組み、様々な他者と関わる機会を設け、自己と他者の理解を深められるようにする。	A					
		・個別の教育相談を充実させて生徒一人ひとりの状況を把握し、適切な支援を行って生活面、学習面での成長に寄与する。	A					
第Ⅱ学年	学年スローガン「当たり前を当たり前に」を忘れず、中堅学年として全体を考えて自主的に行動できる生徒の育成を図る	・全ての教育活動において教師・生徒の言語環境を整え、生徒と教師の望ましい信頼関係を構築する。	B	A	A	・学習に向かう環境を整え、更なる学力の向上を図る。 ・個性が発揮できるような場を設定し、リーダーの育成を図る。	A	行事等で主体性が育成されていることが見て取れる。
		・「協働的な学び」や「深い学び」を通して、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力を育成する。	A					
		・課題研究や宿泊研修等を通して、生徒の自己肯定感を高め、自主性や創造性を養い、集団としての力を育む。	A					
第Ⅲ学年	学年スローガン「継続は力なり」を忘れず、最上級学年として全体を考えて自主的に行動できる生徒の育成を図る。	・「学びにおける生徒の成長」が実感できる授業づくりを行い、生徒自身が希望進路に向けて自ら学ぶ学習習慣を身に付けさせる。	A	A	A	・学習面において、基礎・基本を重視しながら、発展的学習に力を入れる。	A	リーダーの育成を意識した教育の効果が学校生活全体を通じ表れている。
		・挨拶や規範意識の高揚を図り、他者との関わりを通じて多様な個性を尊重し、人としての在り方を考え、行動する力を養う。	B					
		・学校行事等を通じて、最上級生としての役割を自覚させ、見通しを持って集団を牽引する生徒を育成する。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・6年間を見通した教育活動を展開するために、授業改善を進め、質の高い授業を実践していく。
・学校行事等を高校生と一緒に取り組むことができるメリットを生かして、自主性や協働性を育成する。
・教職員の言語環境を整備することが人権感覚の育成に寄与している。今後も、言語を中心に教育環境の整備に努める。
・本校でしか味わわせることができない様々な経験を生かして、リーダーとしての資質を備えた生徒を育成していく。

学校関係者評価

評 価（総 合）	
A	自己評価は A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である

評価項目以外のものに関する意見

一人一台端末が有効に活用されており、生徒が生き生きとした授業が展開されており、素晴らしいと感じた。